



どうなっとるのか 教えてちょ〜!!



一般質問は、議員の日常活動や考え方にに基づき、行政全般に対する質問の要旨をまとめ、指定日までに議長に通告します。

1人の制限時間は60分（一問一答方式は50分）で、12月定例会では2日目の12月10日に開催し、9人が町政の課題を質問しました。



柴山佳也 議員

問

行政改革につながる事務事業の評価、見直しについて

前回の9月議会には、経常経費比率の抑制につながる施策について質問したが、今回は第2弾として少し掘り下げ、事務事業の評価、見直しについて質問する。

①平成13年3月に制定された行政改革大綱は現在進められているのか。

②平成15年4月1日に美濃加茂市・加茂郡町村合併協議会が設立され、8市町村のすべての事業を出し合い、協議・検討した。当時の坂祝町には、多くの事務事業があったと覚えているが、その後、事業の数はどれくらい増加しているのか。あるいは減少しているのか。

③現在、事務事業評価は、行われているか。

④事務事業に関し、外部評価は行われているか。

⑤事務事業評価を行うことで、経費の削減及び効果・効率につながるが、どのように考えているのか。

⑥ここ数年、町の貯金である財政調整基金を充てにし、予算が組まれている（今年度も4億1千万円の取り崩しが予定されている）が、このままだと、数年で貯金が底をつき、さらに続けられれば町民の借金をつくることになるが、今後どのように対策を講じるのか。

答

総務課長

①内部での意見がまとまらず保留状態となり、現在は進められていません。

②一般会計事業数は平成15年当時266で現在は284です。それぞれの事業について今後見直しが必要と考えています。

③財務会計システムと連動した事務事業評価を以前行ったことがあるが、うまく反映されず、職員の負担となっただけという結果となり、ここ数年行っていません。

④外部評価は行っていません。

⑤現在うまくいっていないことを真摯にとらえ、方法や職員負担を考えて、本当に有効な評価ができるよう考える必要があります。

⑥職員全員が意識して、予算規模を抑えていく必要があると考えます。そのための事務分掌及び組織の見直しについて、外部委託も含めて課長会議で検討・議論していきます。

提言

身の丈に合った予算の中で、いかに町民の幸せを実現するかが、行政の責務であると私は思う。今後、より効率的な行政運営をしていただくことを願う。



河村利道 議員

問 防犯カメラを活用した地域の安全対策について

誰もが安全で安心して暮らせる地域づくりの環境として地域の災害抑止力の向上や犯罪が起これにくい環境づくりの視点から「防犯カメラを活用した地域の安全対策」について、質問する。

中部電力が防犯カメラを電柱に取り付ける事業を始めた。比較的安価で設置できるうえ、犯罪抑止力、容疑者の特定、町民の不安解消などの効果が考えられる。

公共施設や犯罪が発生しやすい場所などに積極的にカメラを設置し、犯罪抑止に努める必要があると考えるが、町の設置に対する考えをお聞きたい。

答

総務課長

現在坂祝町内で防犯カメラを設置している箇所としては、役場、中央公民館、幼稚園、小学校、中学校、勝山インターの地下道などがあります。今後どこに設置が必要か調査し、条例の制定、予算等検討していききたいと思います。

提言

今後の設置場所として、坂祝駅、中学校東西登り口、東館、西館の5カ所をぜひ検討して頂きたい。



松田和樹 議員

問 町民ふれあいプールについて

近年、全国で少子化や老朽化によって公営プールや学校プールの多くが廃止になっている。

平成8年に竣工された坂祝町町民ふれあいプールも老朽化が進み、今後のあり方を考える時期だと考える。

- ① 新たな改修の予定はあるか。
- ② 今後の運営についての方向性や計画は。

答

教育課長

① プールサイドの塩ビシートの張替えのほか、プール本体及びスライダー本体の耐用年数が迫ってきています。特に更新時期が近いものとして、スライダー本体については、2年後が更新時期となります。

② 今後、改修の予定もありますが、長寿命化計画の策定もあります。全体を把握した上で、今後のふれあい町民プールの運営等につきまして、大規模改修を実施するのか、延命的な整備で留めるのか、プールを閉鎖し事業転換を図るのか、他市町へ負担金を求めプールを継続していくのか、など多角的に検討していきます。





浮中敏雄 議員

問 災害時の快適なトイレ環境の確保に向けて

被災地では多くの人が避難所に避難する。避難所では食料や水の確保をはじめたくさん問題が生じるが、トラブルの上位には「トイレ」の問題が挙げられている。避難所ではごみ問題と同様に、トイレ環境が劣悪であるケースが多い。避難所での環境衛生を著しく汚染するもので、長期間続くと避難者の健康に悪影響を及ぼす。

有事に備えるため仮設トイレを備蓄する自治体が増えている。数日を超える避難生活をするためには、容量の大きなトイレの確保が必要となる。災害用トイレの対策として「マンホールトイレ」を学校や避難所に設置あるいは備蓄することを提案したい。

答 水道課長

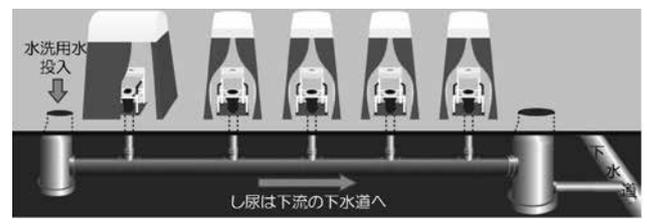
マンホールトイレの概要は、東日本大震災や熊本地震での避難所において、その使いやすさや衛生面で被災者から好評だったとのことでありませう。

マンホールトイレにはメリット、デメリット

もありません。補助対象事業を進めるには避難所の機能充実を踏まえた地域防災計画の見直しが必要になります。

災害に対する危機感は強く感じておりますし、また避難所へのトイレの備えが必要であることも十分認識しております。

ご質問の件につきましては、今後、その必要性の是非を含め防災担当課と協議してまいります。



問 観光資源ロマンチック街道の拡幅について



小寺 忠 議員

ロマンチック街道をウォーキングなどで利用する高齢者が増えてきた。また、同時に自転車の通行量も増加しており、危険を感じることもある。

ロマンチック街道を安全に歩行するために、道路幅を拡幅し、自転車道と歩行者道を区分できないか。「健脚日本のさかほぎ」を目指し、ロマンチック街道の整備を望む。

答 産業建設課長

ロマンチック街道は平成10年に施工され20年が経過しました。舗装の延長は3.5km、幅員は3mです。経年劣化と芝生の浸食による区画線の剥落、横に走るクラックも一部見られます。又、堤体の沈下による凹凸が見られます。

利用者も増加し通勤通学路のほか健康づくりの為にウォーキングや観光目的のサイクリング、ハイキングコースとして利用されております。

現在の通行状況を見ておりますと、小学生の集団登校や、グループで使用している場合、二列で並ぶと道をふさぐ形になるため、自転車ですれ違うことが出来ず、減速する方や降りて引いて行かれる方も見られます。しかし、後ろから走ってくる自転車、無理に人の脇をすり抜けようとすることも多く、夜間は点灯していてもスピードが出ていると大変危険を感じることがあります。舗装の拡幅はこれらの対応策の一つになると考えます。



自転車道・歩行者道として整備を行おうとしたとき幅員5mは必要と考えます。又洪水対策面からもその構造などを国交省と協議をする必要がありますし費用もかさみます。

ロマンチック街道を単なる通り道ではなく、健康づくりや観光といった多様な機能を持つ空間と捉え、その機能の活用を念頭に、舗装拡幅を含めた整備を図ることが望ましいと考えております。実施する場合は予算を見ながら複数年かけて整備を図ることになると考えております。



竹内浩一 議員

問 立体路面標示の採用について

現在、町内道路の区画線や横断歩道等の道路標示がいたるところで薄くなったり、消えかけている。子供たちが学校へ通う通学路でも多く見られ、交通安全面で大変危険だと思つ。早急に対策をお願いしたい。

交通安全対策のひとつとして、他県では多く採用されている立体路面標示や立体減速表示、いわゆるイメージランプがあります。子供たちの安全を確保するため、小学校や幼稚園周辺に立体減速表示を、また通学路の横断歩道や交差点に立体路面標示を採用されたい。

答

立体路面標示を採用している自治体で、効果があるのか、普及しているのか、どのような立体路面標示か、また費用対効果などについて調査したいと思つています。



総務課長

問

健康ポイント事業について



新井谷正代 議員

健康意識の向上とつきかけづくりとして今年9月から参画している『清流の国ぎふ健康ポイント事業』。気軽に参加してみようと思えるような広報活動やポイントの対象メニューを増やす、町独自の特典を考えるなど内容を多様化する事など参加者増加を考えるべきと考えるが。

答

次年度から検診時に事業PRを積極的におこなうよう工夫していきたいと思つています。

また、対象メニューの追加は可能なので、教育委員会・社会福祉協議会等の関係機関と検討していきます。

健康ポイントをボランティアポイントに繋げていけたら良いと考えるが。

答

福祉課長

幅広くある活動の中、特定の活動を選別する事は難しいと考えています。



提言

次年度の検診時に向け、今からPRするべき。何等かの報酬を望んでボランティアをしている人はいないと思う。健康意識の向上とともにボランティア参加のきっかけになるのではないかと考える。まずは全自治会にあるふれあいサロンや支え合い団体の活動を対象にするなど検討されたい。

問

災害時。ペット同伴での避難体制について

ペット同伴避難のマニュアルは検討されたか。ペット同伴避難のしおりが作られていると思うがどの様に活用しているか。

答

総務課長

避難所運営マニュアル別冊（ペット版）を作成しました。マニュアルは今後HPや狂犬病予防注射時などで配布し、ペット同伴避難訓練などを計画したいと考えています。避難所ではペットの飼育・管理は飼い主本人で行っていたいただき自身の大切なペットはご自身で守っていただきたいと思えます。

提言

いろいろな理由で動物が苦手な人がいるし、様々な生き物がペットとして飼育されている。坂祝町防災計画の一部でもあるマニュアルは町の対応を知ってもらうためにもペットの有無にかかわらず全戸配布すべき。飼い主が守り世話をするのは基本だが、町が準備出来ること、飼い主が準備すべきことを周知することで避難所での混乱を少しでも減らすことが考えられる。そのためには町の準備内容をしっかり決め、町民への周知をするべき。



飯田正仁 議員

問

児童生徒の体への負担を 考え、通学カバンは軽く

文部科学省の掲げる脱ゆとり教育などの影響で、教科書は大きくなり副教材も多い。そのため、通学カバンが重く、児童生徒の体への負担が大きい。体重の一定割合を超えた荷物は、子どもの体にゆがみ等の悪影響があると言われている。

そもそも、教科書の持ち帰りは、「家庭学習」のためとされている。家庭で使わない教材

は、学校に置いて問題ないと考える。また、副教材を備品として学校が購入してはどうか。

答

教育課長

坂祝小学校では、毎日の持ち帰りが不要な教科書や教具については、学校保管を認め、学期末に持ち帰る物については、計画的に持ち帰るよう担当が伝えていきます。坂祝中学校では、4月に「置いていってよい物」リストを作り、学校保管を認め保護者にも通知しています。また、文部科学省事務連絡を受け、小学校ではあらかじめ具体的な内容を検討し、「毎日持ち帰りをする物」「必要に応じて持ち帰る物」「学校に置いていく物」を各学年で調査し、一覧表にしました。

副教材は、複数年使用が可能なので、資料的なものについては、学校備品として購入していきけるよう小中学校と検討していきます。





松田賢治 議員

問 坂祝町子ども権利条例設置について

文部事務次官通知では、「子どもは権利享有の主体である」として教育活動全体を通じて指導をすることとしている。また、子どもにとってよりよい社会にいくために、子どもに関わるすべての分野の大人に対して、子どもに意見表明・参加の権利を保障することを求めている。坂祝町子どもの権利条例設置について答弁を求める。

答 ぐども課長

坂祝町の現状として、「坂祝町人権施策推進指針」を策定しており、「分野別施策の推進」の中では「子どもの人権」について、「子どもの人格を尊重する教育・啓発の推進」など、6つの施策を方向として定めています。今後「子どもの権利条例」の制定につきましては、他自治体の動向も注視しながら、勉強を続けていきます。

問 小学校・中学校体育館及び西館・東館に「ビックフアン」・「エアコン」の設置を

児童・生徒の生命に関わる重要な問題として、熱中症予防に関する学校側の対策は欠かせない。また、体育館は地域・広域の防災拠点となる。小中学校体育館及び西館・東館の改善について答弁を求める。

答 教育課長

現在、学校施設を始めとし公共施設の長寿命化計画（個別施設計画）の策定を順次進めているところですが、計画策定後に改修等については、国庫補助事業等の有効活用も含め、検討していきます。

問 農地の境界を示す杭や空木の復元事業支援について

農地の集積・集約化のためには境界杭を取り除く必要が生じる場合がある。しかし復元には多額の費用がかかるため、市町村・農業委員会・認定農家は農地の集積に躊躇している。安心して就農できるように経営条件を抜本的に改善するために農地の集約化・杭・空木の復元事業の支援を求める。

答 産業建設課長

農地を大規模化し、農地集積を進めるためには畦畔の除去が必要ですが、それには借地人による境界杭の復元が必要となり、その費用負担が大きいことが問題となっております。

農地集積・集約を促進するため、支障となる境界杭の復元に対する補助については、実現可能な費用の低減と、国による法整備の状況を見ながら実施を検討します。

